



日本万国博覧会記念メダル MEDAL EXPO'70

資料登録番号
2019-3



図. 日本万国博覧会記念メダル オモテノウラ、ケーススリーブのウラ

大阪・関西万博がはじまりました。早速、大勢の人が万博を楽しんでいるようで、評判が伝わってきます。やはり世界中の色々なお宝、ホンモノが一堂に会するというのはスゴイことだと思います。

ところで、万博は開催後は更地に戻す。後に残さないというのが基本の催事です。したがってパビリオンは催事の間だけ使って取り壊すことになっています。1970年の万博会場になった千里の広大な万博公園内に、あの太陽の塔と鉄鋼館（小坂府のEXPO'70パビリオン）以外、ほとんど何も残っていないことからうかがい知れると思います。（なお、フジパンロボット館など移設されたものも多少はあります）。

ちなみにエッフェル塔も1889年のパリ万博（フランス革命100周年記念）のパビリオンだったのですが、取り壊すことになっていましたが、エッフェルさんらの運動により残され、現在はパリのシンボルになっていますが、これは少数派なのです。

さて、しかし「モノより思い出」といいながら、「思い出の品」は残したいのが人情。万博グッズは今回もたくさん売られ、グッズ売り場は大人気だそうです。半世紀後にミヤクミヤクさんのカチューシャが発掘されて、おばあちゃんこれ何？というのもまた楽しいことじゃないかなというところです。

ただ、それが「科学館の収蔵物」にはなかなかならないものでございます。そのような中、かろうじて収蔵物になっているのがこちらの記念メダルです。サイズは500円玉大。作ったのは桜宮の造幣局で、銅製、調べると当時の値段は350円です。当時の入場券が800円ですので、いまなら3000円の価値でしょうか。ちなみに金と銀も作られました。スリーブにはデザイナーの福田繁雄さんの想いが日英で書かれています。「包摂」という言葉が使われていることにすごいなと思いました。

渡部 義弥（科学館学芸員）